

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内 藤 留 幸
編集主筆 竹 澤 知 代 志



安行教会 (関東教区、埼玉県川口市)

メッセージ

ヨハネによる福音書20章19〜23節

遣わして下さるのは主



田中かおる

「自分を知る」ということ

「自分を知る」ということは、人間にとっても大切なことです。自分の何たるかがわからないから人はイライラする、とさえ思います。生き生きと生きられないのです。「自分を知る」とは、「自分の生の姿を知る」ということです。「生の姿を知る」ということは、あたりまえのようで、実はこれがなかなか難しいのです。

「自分を知る、すなわち自分の問題を知る」ということをテーマにした漫画を見つけた。この漫画は、アメリカ人による漫画で、犬が主人公、といえ、ピンとくる人も多いと思います。犬のキャラクターが、日本でもすっかりおなじみです。このシリーズの中に、興味深い四コマ漫画がありました。少年Cに対して、少女Lが、このC少年の問題の本質を鋭くついている、そういう四コマ漫画でした。それはこんな展開でした。

①少女Lは、「そもそも、あなたの何がいけないのか、知っている?」とききなり、少年Cの問題の指摘を始めます。

②ところが、少年Cは、「いや、でも知りたくない。ほっといてくれ」と怒ります。

③そして少女Lのもとを離れます。

④すると、少女Lは、「何が

心の内側から鍵をかけて

二〇〇〇年前の主イエスの弟子達も、例外ではありませんでした。弟子達は、自分達の問題が一体何なのか、わからずに過しておりました。ヨハネ福音書20章19節によれば、「弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた」という状態でありました。この時、弟子達は、既に、女性の弟子マリヤによって、自分達の主イエスはよみがえって墓にはおられない、という、驚くべきニュースを聞いていたはずです。しかし、十字架で死んだ主イエスがよみがえった、ということ聞いて、弟子達は単純に喜ぶことができないでおりました。なぜでしょうか?一つには、そんなことはあり得ない。あり得ないことをどう受け止めてよいのか、

熱心なクリスチャンです。作者は、この犬とその仲間たちの漫画を通して聖書のメッセージを語っていることを使命としていた、といえます。

一方で、別な人が本を著し、この漫画の解説している四コマは「どんな人の心にも『罪』がある。しかしそれを認めるのは難しい、というのが、聞こうとしないのが、そもそもしけないのよ」と叫びます。つまり、少年Cは、自分の姿を直視できない、自分にはみえていない問題がある(「罪」ということを認めることができない。それを少女Lは、鋭くついている、そういう漫画なのです。実はこの漫画の作者は、

それを認めるのは難しい、という点を鋭くついている」とのことでした。自分には、自分で対処できない部分がある。自分には見えていない問題(「罪」)がある。それを「知る」ということは、至難の業。難しいこと。しかし、それはとても大切なことであるのです。

いたのです。

弟子達は、主イエスの弟子となって主イエスと行動を共にしている時には、こんな情けないことになることは、夢にも思っていなかったことでしょう。私に従ってきなさい」といってお言葉にそれまでの職業をそれぞれ捨てて従った者達、「あなたのためなら命を捨てます」と断言した者。主イエスが栄光をお受けになる時には「どうぞ、私たちを左右に座に座らせてください」と申し出た者達。自分達の中で「誰が一番偉いか」と議論した者達…そういう弟子達であったのに、今は、ただだ、恐ろしくて、自分達の心の内側から鍵をかけて息をひそめて成り行きを見守っていることしかできない。それまでは自分達がそういうことになるとは、誰も想像できなかったに違いありません。順調な時に

遣わして下さる主によって

二〇〇〇年前の弟子達に起こったこの出来事は、今も、礼拝の度毎に起こっています。自分を知る、自分の問題に気づくのに疎い、そういう私達。そのこの故に内側から鍵をかけてしまっている私達。復活の主イエスは、その私達のただ

けて真っ暗闇の中にいる弟子達の中に、主イエスの方から入ってきてくださいました。そして、「平和があるように」とおっしゃってください。十字架の傷痕である手と脇腹を弟子達にお示しになりました。弟子達は、それをみて喜んだ、といえます。主が弟子達の裏切りを責めるのではなく「平和があるように」と神が共にいてくださることを宣言してくださる、弟子達はほや、恐怖におののく者ではなくなっているのです。罪赦されて、神が共にいてくださることを喜ぶ者とされたのです。変えられた弟子達がここにいます。自分の問題、すなわち「罪」に気づけなかった者達が、自分の罪に気づかされ、しかし罪赦されて、深い闇の淵から立ち上がることできて、ここにいます。



▼海辺の町で、漁師に素潜りを習った。シュノーケルも足ひれも着けず、ゴールだけ。全然駄目。波に浮かんでいる状態では、潜水の姿勢さえ作ることが難しい。そこで腰まで波が届く岩場に立つて、そこを根拠に、頭から潜っていく。一メートルも無理、身の丈

ほとんど潜れない。頭は海に浸かっている、足が空中に出ている。▼同じことを、何度も繰り返してから、彼が初めて問題点を指摘してくれた。飛び込む前に、肺活量の限りに息を吸い込んで、いるというのだ。それでは、浮き輪を着けて潜るようなもので、絶対に無理だと言ふ。なるほど、息を吐き出して、浮力を少なくしなければならぬ。▼理屈では納得しても、これを実践するのは困難。どうしても、直前に吸ってしまう。これはもう、本能だ。何度か繰り返し、数メートルは潜った。しかし、息が苦しくなると、空気を吐き出す。つまり、未だ空気は残っている全部吐き出してはいないのだ。▼全てを捨ててイエスに従うことの、困難を思う。胸の中の思いを全て吐き出さなければ、聖霊に満たされることは出来ない。

「教会教育セミナー」初開催へ

来々三月高知県で

育 会
教 員
委 員

第35総会期、第三回教育委員会が九月三日(月)、四日(火)の両日、教団会協議は教会教育セミナーと議室にて開催された。小委員会や委員が派遣されてい

るそれぞれの委員会の報告の後、協議に入った。主な

「教会教育セミナー」は今回初めて開催される。これまで公開教育セミナーとして開催されてきたものの意図を、更に明確にするた

めに名称を変更し、企画をより現場の教会教育の必要に近づけたと願っている。

二〇〇八年三月三日(月)

四日(火)の日程で、高知の二つの教会を会場に予定している。主題は「主の

業に召される喜び」講師は教育委員会の平田和子委員

(吐田郷教会キリスト教教育主事)である。今回は教区教育担当者会も併せて開

催する。前回は十六教区から参加があった。教育委員会としては全教区の参加を

心待ちにしている。

今年のクリスマス献金は国内では、能登半島地震と



岸憲秀委員長(中央)を中心に、難題にも明るい笑顔で

林原泰樹宣教師派遣式が七月二日、木下宣世

世界宣教師委員会委員長の司式と説教により教団会議室で執り行なわれた。

林原氏はドイツ、ライ

ンラント州の

ケルン・ボン

日本語キリス

ト教会に派遣

される。

同教会は一九七七年にボン聖書集として歩みだし、今年で創立三〇周年を迎える。毎聖日ケルン市郊外のボンヘッファ

と教団との宣教協力により当教会は支援され、EKUに所属しているライ

四者協議により、ライ

この様に厳しいドイツ教会の事情の中にあっても林原宣教師への期待は

式後にもたれた茶話会では、出席者から激励のスピーチがなされた。また、林原宣教師は、厳しい状況の中にあっても、これが神の召しである

ケルン・ボン日本語キリスト教会へ

林原泰樹宣教師派遣式執行



これが神の召しであると確信して

「ユースミッション2008」として密度の濃い交流の時を持ちたく願っている。そのために実行委員会を組織する事を決定した。三日の夜には今年の台湾の青年大会に参加した青年三名を迎えて報告会を行った。時間内では語り終わらないほどの熱気のもった報告会であった。

(加藤誠報)

秋・春の教師検定試験に備える

教師検定委員会

第35総会期第二回教師検定委員会が、八月二〇日(月)～二二日(火)、教団会議室において、委員七名全員が出席して行われた。

最初に、内藤留幸新教団総幹事からの挨拶があった。委員長・事務局報告において、第二回協議委員会(七月九、一〇日)で決定され

ての在籍期間の不足者一名について、受験資格がないことを確認した。

更に、試験について次のように協議をし、決定した。面接の持ち方については、受験者の居住地に配慮すると、第一目の方が

今回申請書を提出した十九名について、これを検討し、承認した。

兵庫教区常置委員会から出されている、幾つかの質問について協議をし、回答を作成した。

二〇〇九年春季教師検定試験について、次の通り検討し、決定した。①会場については、今般教団四階会議室の改修工事をするこ



委員7名全員が出席し、秋・春季の試験に万全の備え

教師検定試験公告

二〇〇八年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱と受験願書の提出期限
受験要綱と教団指定の願書用紙は一六〇円切手を同封し、正教師受験志願者が補教師(A、B、Cコースの別も)受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。願書と必要書類を整えて受験料とともに所属教区に提出してください。なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第十二条②」によるものに限ります。

①教区締切 十一月十六日(金)

(教区により締切が異なりますので、教区事務所を確認してください)

②教団締切 十二月三日(月)

(各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です)

＊受験料は正教師一万三千円、補教師二万円、補教師について

①「説教」「釈義」の課題テキスト

旧約 ヨシヤ記 一章一～九節

新約 ローマの信徒への手紙 五章一～五節

②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱で確認下さい。

③補教師(Cコース)の牧会字の課題

『牧会とは何か』について論述してください。

三、正教師について

受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

四、提出物(説教、釈義、牧会字)締切について

当委員会への提出締切日、二〇〇七年十二月十四日(金) 必着です。

五、学科試験と面接について

学科試験は二〇〇八年二月二六日(火)、面接は二月二七日(水)、二月二八日(木)に東京・

日本キリスト教会館ビル内(教団会議室)にて実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。

不明な点は直接当委員会へお問い合わせください。

二〇〇七年十月一日

日本基督教団教師検定委員会

〒一六九〇〇五一

東京都新宿区西早稲田二一三十八一三十一

電話 (〇三)三三〇二一〇五四六

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩



Bangladesh に『寺子屋』を贈ろう

人生を変える出会い

ACEF事務局 木部 紫

「Bangladesh に寺子屋を贈ろう」を合言葉に、私たちアジアキリスト教教育基金(ACEF)が活動を開始したのは一九九〇年。翌九一年の夏には第一回スタディーツアーを行い、二五名の参加者をBangladeshへと送り出しました。以来、春と夏、年二回のスタディーツアーは今年の夏で三三回を数え、参加者は延へ五百名を越えました。

スタディーツアー参加者の多くは学生で、アジアの国は初めてという若い人々です。その彼らが、春や夏の長期休みに、英語習得のための短期ホームステイやリゾート地への旅行を選ぶ、あえてBangladeshへと出かけていくのは、それぞれ理由があるのでしょう。ひとつ確かなのは、みなが何かを求めている、ということです。

スタディーツアーで目にするBangladeshの現実、参加者の心を揺さぶります。都市部のスラム、貧しい農村、そして物乞いを



「ロンドン橋おちた♪」スタディーツアーのひとこま

する少年の姿に動揺します。一方、圧倒的な自然の美しさに息を呑み、そこで営まれている暮らしの中に、また現地の人々との暖かい交流の中に、豊かな「生」の彩を見出します。これらすべては、参加者にとって唯一無二の出会いであり、アジアのまた見ぬ外国の一つであったBangladeshが、生涯の友としてたち現れる瞬間なのです。けれどもスタディーツアーには、もう一つの本質的な出会いが準備されています。それはキリスト教との出会いです。

ツアー中は毎日、朝と夜に祈りの時をもちます。ツアー参加者全員が、あらかじめ聖書の箇所を割り振られます。そして毎回の担当者を中心に、メンバー全員で聖書の言葉を学ぶのです。今まで教会に足を向けたことなく、スタディーツアーに参加するため、やむなく聖書を購入したという若い人たちが、Bangladeshで初めて神と出会う。それがACEFスタディーツアーの、他の同様のツアーとは徹底的に異なる、重要な側面なのです。

Bangladeshとの出会いの中では、目の前の現実の一つ一つが衝撃です。何かを求めてきたはずなのに、そこには「答え」はありません。私が今、目にしてい

るものは何なのか。求める気持ちがますます強くなるとき、神の言葉は自然と心の奥深くにまで届くのかも知れません。帰国後に教会に通うようになったという参加者の話を聞くと、ACEFにはBangladeshへの教育支援にとどまらず、日本の若者たち

のために果たすべき役割が与えられていることを、改めて感じます。ただ、時には残念なこともあります。スタディーツアーの興奮も冷めやらぬまま、勇気を振り絞って教会へと出かけていった学生が、一度きりで教会から足が遠のいてしまつことも少なくないのです。自分のBangladeshでの体験を、教会で多くの人と分かち合いたいの、理解してくれる人に出会えなかった、というのです。

ACEFの活動は、これまでも多くの教会と牧師、教会員の方々に支えられてきました。団体会員として支援してくださる教会も多数ありますし、クリスマス献金やバザーでのBangladesh手工芸品の販売などを通じての支援もいただいています。

出版局 ニュース

http://www.bp.uccj.or.jp

●新刊から

『真夜中に戸をたたけーキング牧師説教集』C・カーソン、P・ホロラン編、梶原寿一訳 人間本来の権・存在回復のために全身全霊で闘ったキング牧師。真夜中に悲しみが生まれるにもかかわらず、朝には喜びが訪れることを力強く告げた標題の説教をはじめ、今も全く古びることなく、臨場感にあふれ、聴く者の魂を揺さぶる十一篇の説教を厳選して収録。(四六判・二九〇頁・二七三〇円)

『カール・バルト 一日一章』K・バルト著、R・グルノー編、小塩節・小鎗千代二訳 神学者カール・バルトの著作、講義、説教など、膨大な言葉を丹念に掘り起こし、教会暦に従って日々の黙想のために再編集した労作を、二人のドイツ文学者が精魂を込めて新たに訳出。バルト神学に親しい読者から、初めて出会う人まで、バルトとともに祈る三六五。(A5判・七三三頁・特価八七五円)(〇八年一月末迄) 通常定価九二四〇円

『生の冒険』ポール・トゥールニエ著、久米あつみ訳 人生のすべては冒険である。幼時の遊びや発見、青年期の進路や人間関係の選択、各時代に固有の冒険がある。隠退さえも新しい冒険の始まりだ。散乱から集中へ、偶発から永続へ。神の手に導かれる数々の冒険を通して生の全体的意味を問う、著者円熟期の代表作。(四六判・三三〇頁・二九四〇円)

米好評発売中『人生の四季ー発展と成熟』P・トゥールニエ著、三浦安子二訳(四六判・一八九〇円)

『総説 キリスト教史3ー近・現代篇』栗林輝夫・西原康太・水谷誠二著、荒井献・出村彰二監修 一七世紀から二〇世紀に至るアメリカ、イギリス、そしてヨーロッパ大陸の変遷、および二〇世紀に台頭してきたエキュメニズム運動の流れをたどる。(A5判・二七四頁・四二〇〇円)

全三巻完結第一巻 原始・古代・中世篇 荒井献・出村彰・出村みや子二著(四六二〇円)、『第二巻 宗教改革篇』出村彰二著(三九九〇円)

『新教育基本法を考える』深谷松男二著 教育基本法は「改正」によってどのように変わったのか。大切な教育の理念を保持し、真に豊かな教育を実現するために、いま知っておくべきこととは。改正前後の比較表も掲載。(A5判・一〇四頁・九八八円)

●待望の復刊『私のキリスト教入門ー使徒信条による』偶谷三喜男二著(四六判・一四四頁・一四七〇円) ※価格税込

●『讃美歌21』刊行一〇周年記念感謝礼拝 一〇月二〇日(土)・午後三時より・霊南坂教会、ソプラノ・菅英三子。参加自由。※一日聖歌隊 募集。お問い合わせは「讃美歌委員会」

を問う、著者円熟期の代表作。(四六判・三三〇頁・二九四〇円)

米好評発売中『人生の四季ー発展と成熟』P・トゥールニエ著、三浦安子二訳(四六判・一八九〇円)

『総説 キリスト教史3ー近・現代篇』栗林輝夫・西原康太・水谷誠二著、荒井献・出村彰二監修 一七世紀から二〇世紀に至るアメリカ、イギリス、そしてヨーロッパ大陸の変遷、および二〇世紀に台頭してきたエキュメニズム運動の流れをたどる。(A5判・二七四頁・四二〇〇円)

全三巻完結第一巻 原始・古代・中世篇 荒井献・出村彰・出村みや子二著(四六二〇円)、『第二巻 宗教改革篇』出村彰二著(三九九〇円)

『新教育基本法を考える』深谷松男二著 教育基本法は「改正」によってどのように変わったのか。大切な教育の理念を保持し、真に豊かな教育を実現するために、いま知っておくべきこととは。改正前後の比較表も掲載。(A5判・一〇四頁・九八八円)

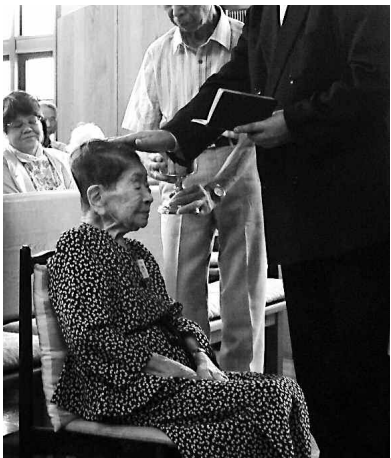
●待望の復刊『私のキリスト教入門ー使徒信条による』偶谷三喜男二著(四六判・一四四頁・一四七〇円) ※価格税込

●『讃美歌21』刊行一〇周年記念感謝礼拝 一〇月二〇日(土)・午後三時より・霊南坂教会、ソプラノ・菅英三子。参加自由。※一日聖歌隊 募集。お問い合わせは「讃美歌委員会」



本堂あつさん

103歳の新生



本堂あつ洗礼式・沼津教会員

本堂あつさんは、一九〇四年八月十五日生まれの二〇三歳。八人の子どもを育て上げた。そして、昨年夏から六番目の本堂正さんの家に越して来ている。沼津に来てからは、正さん夫婦に連れられて、毎週欠かさず礼拝を守り、二階にある礼拝堂へも階段を上り下りする元気なおばあちゃんである。

四月に同世代(?)の集まりであるシメオン会で牧師が説教したところ、説教が良く分かったと言った。説教が分かるという声に牧師は勇気百倍、初心者の方に誘った。すると、その入門書の読み合わせでは、周囲の者が驚かされた。若いだけよりも大きな声で、漢字も間違わずに読み切ったからである。

母親は、教会の皆さんは小さいといふと思うほど、長々とお祈りをささげている人がいる。水曜日の祈禱会ときである。教会の歩み、教会員、社会の動き等、祈りの課題は果てしない。いつも教会の皆さんに声をかけ、皆さんの様子を知り、祈禱会ではそれらの皆さんを覚えてはお祈りをされる。これらの祈りが教会を支えている。

最近、母親と共に礼拝に出席している高校生になった少年が、礼拝が終わると同時に帰ってしまふ。牧師が玄関に立つより先で、言葉を交わす間もないのである。

祈りを深めるために

よ、と言われるのであった。やはり幼稚園の頃から、教会には母親と共に出入していた青年が多くなった。コメント次第でお祈りが長くなるのか。

さて、反響はと言えば、牧師にいろいろ消息を尋ねてくる場合が多くなった。コメント次第でお祈りが長くなるのか。

(教団総会書記 鈴木伸治)

母親は、教会の皆さんは小さいといふと思うほど、長々とお祈りをささげている人がいる。水曜日の祈禱会ときである。教会の歩み、教会員、社会の動き等、祈りの課題は果てしない。いつも教会の皆さんに声をかけ、皆さんの様子を知り、祈禱会ではそれらの皆さんを覚えてはお祈りをされる。これらの祈りが教会を支えている。

最近、母親と共に礼拝に出席している高校生になった少年が、礼拝が終わると同時に帰ってしまふ。牧師が玄関に立つより先で、言葉を交わす間もないのである。

(教団総会書記 鈴木伸治)